

地 域 概 要

狩猟採集民バテンボ族が生活している地域は、ザイール共和国のシャバ（旧カタンガ）地方にあるミツンバ山地、ムエル湖北部山岳地域にあたる。彼らの移動している範囲は、カサマ村を中心に、北はモバ(M o b a)、西はキアンビ(K i a n b i)の、ムエル湖とタンガニーカ湖の間らしい。ここはアフリカ高原の一部をなし、平均海拔900メートルから1,000メートルの台地である。

また、昼間には30℃を越える気温も、朝晩には10℃以下になるという寒暖差の激しいサバナ気候(私としては、熱帯降雨林とサバナの中間の乾燥疎開林帯に入るような気がする)で、雨期が10月から11月に始まり、小休止を間にはさんで4月まで続き、乾期は5月から9月まで続く。

この地域の人々は、ベンバ族、ルバ族、シラ族、ルアブラ族、タブア族等のバンツー系民族で、それぞれの民族は異質の言語、風習を持っているが、東アフリカの共通語であるスワヒリ語も広く通用する。

人々の生活は、農耕・放牧・狩猟採集・漁労に大きく分けられ、それぞれが関わりを持って生活し、キャッサバ等のイモ類やトウモロコシ、バナナ等を主食としている。

ザイールは植民地時代より、ミッションが大陸の隅々にまで布教活動を行い、その結果として、かなりキリスト教も広まってはいるが、伝統的宗教を守っている人々が大半を占めている。

1960年のベルギーからの独立以降は、自らの手による政策を推し進めてはいるものの、植民地時代と比べると国は貧しくなり、インフレにあえぐ現状にある。

<参考：ミリオネ全世界事典>

～ザイール共和国～

- <面 積> 2,345,409㎢
(日本の約6倍)
- <人 口> 2539万人 (1976年)
- <首 都> キンシャサ(K i n s h a s a)
- <現大統領> モブツ
- <公 用 語> フランス語

～インフレの証明～

1 us\$ (Fℳ) が公定レートでは5～6 Z (ザイル)
ヤミレートでは30 Z に両替(換金)された。

～1983,7月～



1:5 000 000

0 50 100 150 200 250 300 350 400 Kilometres